

令和7年度  
菊陽南小学校  
経営計画書

#### 経営の基調

「自分が好き」「この学校が好き」と言える学校、そして、  
展望をつかみ、しなやかに生き抜く子どもを育てる菊陽南小にする。

#### 教育目標

## 学び、考え、行動する南っ子

### ＜本年度の学校努力目標＞

一つ一つの取組に「具体性」をもたせ、「徹底と継続」を図る組織の力で、  
しなやかに生き抜く子どもを育てる学校にする

「しなやかに生き抜く子ども」とは

校訓「やさしく かしく たくましく」

- やさしく(徳) 自他を見つめ、想い、行動し、他者とつながることができる子ども
- かしく(知) 自ら進んで課題に取り組み、粘り強く学び続ける子ども
- たくましく(体) 自他の生命を大切に、健康や安全に気を付けて生き抜く子ども

教育スローガン（大切にすること）は

小さなことから具体的にコツコツと！

みんなで、そろえる！続ける！

#### 1 はじめに

##### （1）地域とともにある学校

若い頃の私は、「地域」と言われても全くピンと来なかった。私の目は「学級経営」に集中していた。

当時の校長先生から「お前は、自分のクラスのことしか見えていない。学校というところを、学校の中からは見えていない。学級のことを通してしか、学校のことを見えていない。」と教えをいただいたことがあった。

さらに、「学校というところを外から見つめる力をつけなさい。」と、社会教育主事研修に送り出していただいた。

老人会の方々と一緒に竹箒を作ったり、婦人部のみなさんと郷土料理を作ったり、地域の伝統や、それを守り抜く取組等を学びながら、少しずつ気づかされたことがあった。それは、地域に住まわれている皆さんには、ふるさとや学校への大きな願いがあり、学校は「地域の学校」なんだということである。在学している子どもや保護者だけでなく、もっと多くの人にとって大切な場所なのが学校である。

この菊陽南小で一年間を過ごして、さらにそのことがよくわかった。本校は、まさに「地域に愛され、地域に支えられている学校」であり、その学校愛に満ちた地域力により、素直で穏やかでスレのない子どもたちが育つ学校を、長年作り上げてこられているところなのである。

今年度、南小は創立150周年を迎える。すばらしい校風を作り、育て、守り続けてこられた学校の節目の年に、ここで働くことができる幸せを感じ、職員みんなで本校の伝統を守り、一歩前進することに寄与していきたい。

本校の教育は、教室や校舎の中だけで進んでいるものではなく、地域の中で見守られながら進んでいるのである。そのことは、これまで、そしてこれからも変わることはないし、変えてはいけないことである。菊陽南小学校は、真に「地域とともにある学校」なのである。

## (2) 地域の願い

近年、勢いある発展を遂げている菊陽町であるが、全体的な発展の一方で、武蔵ヶ丘中校区の発展や、白川の北側域の発展と比べると、対照的な面もある。

年々と子どもの数は減少し、特産物であるにんじんやトウモロコシを中心とした産業も大規模なものではなく、跡継ぎが少なく、高齢の方々が自分たちでできるだけ規模で、地域で相互に協力しながら農作業を行われているところが多い。

この地域で生まれ育ち、外へ出られていった方も多い中、この地にとどまり、生き抜いてこられた方々の誇りが強い。その子どもや孫たちの育ちに深い愛情を持たれ、だからこそ学校への協力も惜しまれず、学校教育を精一杯支えてくださる。

その地域の方々の、学校への一番の願いは、「学力をつけてほしい」ということである。本校の学校運営協議会でも、同様に学力を高めることへの願いを切に語られる。

この地域に生きる方々の様々な人生を経ての願いである。この南小に勤務する我々は、そうした背景と願いを踏まえて子育てに取り組みたいものである。

また、小規模校（少人数）が故に、中学校に行っても、また、社会に出ても、臆せず堂々と生きられる力をつけてほしいという願いもある。

昨年度も明らかになった児童の実態がある。それは、小学校生活の6年間をずっと少人数で、且つ同じメンバーで過ごすため、仲がいい反面、ちょっとしたことで、その仲がいい集団からの疎外感を持ちやすく、そして集団の安定を考えるとところもあって、自分の思いを心の内にぐっとしまい込み、心が苦しくなる傾向があるという面である。

だからこそ、子どもたちには、自分自身や相手のことを見つめ、考え、表現できる力を培っていききたい。そのことで、自分の側にいる人と繋がって生きていく力をつけ

ていきたい。繋がりを保障して、安心して過ごすことができる学級・学校を築いていきたい。

ただ、この課題は今に始まったことではない。これまでこの南小で育った先達の方々も実はそうであった。児童の父母そして祖父母たちもそうであったと聞く。昔から続いている南小の特徴でもある。

これは、「課題」でもあるが、「すばらしき校風」でもあることを、ここで確認しておきたい。

みなさんは、「五常」を知っておられると思う。「五常」とは、儒教の始祖である孔子と、儒教を広めた孟子が、約 2500 年前に唱えた儒教の根本思想であり、「仁・義・礼・智・信」の 5 つの徳を積むことで、人間関係を豊かにすることができるという概念である。



「仁」は、他者への思いやりや慈愛、共感を意味する。仁は五常（仁義礼智信）の中でも最も中心的な価値であり、「人」という一言で表されることもある。

「義」は、個人の欲望や私利私欲を超えて、公共の秩序や道徳的な原則に従おうとする姿勢を表す。これは自己と他者との関係を重視し、社会的なルールや倫理に従って行動することを意味する。

「礼」は、礼は慣習や伝統に基づいて、人間関係や社会の秩序を維持するための作法や規範を指す。礼を実践することによって、個人は他者との関係を円滑にし、相互の敬意と信頼を築くことができる。また、礼は感情や欲望に支配されずに行動するための指針ともなる。個人の自律性と社会的な統制が相互に補完しあい、共存共栄の社会が実現されるとされている。

「智」は、知性や知識だけでなく、道徳的な認識や判断する能力を指す。仁は他者に向かっていく心情や思いやりを表し、義は道徳的な行為や義務を指すが、智はそれらの徳を理解し、適切に判断し行動する力を指す。つまり、智は知識だけでなく、それを道徳的な観点から正しく利用する能力を含んでいる。

「信」は、自分の言葉や行動に対する責任感や誠実さを表す。つまり、自分が言ったことや約束したことを守り、行動に移すことを指す。また、他人に対する誠実さや信頼性も含まれる。これは、他人との関係を築き、社会の秩序を維持するために重要な価値観とされている。

五常の話を持ち出して、何を言いたいのかというと、この菊陽南小校区は、この五常（仁義礼智信）の精神に満ちあふれた地域であると私は感じているということである。自分の価値観や欲求や利益を優先して他者を攻撃する人が増えてきている現代に

反して、この校区には、他者を想い、時には自分の思いを表出させることを伏せて、他者との関係を保ち、さらには相互の行動により助け合う協働・相互支援の関係を築きながら、集団や社会の安定を大切にして、繋がり・帰属意識・協働・団結を生み出してこられてきている尊い歴史がある。そのことが、現在の本校の子どもたちの、素敵な姿につながっていると思えてならないのである。

南小職員には、ぜひ、この地域のすばらしさを踏まえた上で、課題解決に臨んでほしい。

すばらしい校風を守り継ぎながらも、一步前進を目指していきたい。先にも述べたが、菊陽町は革新的な発展の途上にあり、子どもたちがグローバル人材として輝いていく可能性と必要性を秘めていることを想像することは誰の目にも明らかである。

だからこそ、子どもたちには、主体的に学び、考え、課題を解決していく力をつけさせたい。自分自身や相手のことを見つめ、考え、表現できる力を培っていきたい。そのことで、自分の側にいる人と繋がって生きていく力や協働の力をつけていきたい。繋がりを保障して、安心して過ごすことができる学級・学校を築いていきたい。

### (3) 実態（課題）とこだわり（データは少し古いが、傾向は同様である）

2022年度の不登校の小中学生は29万9048人で過去最多。小学生10万5112人（前年度比2万3614人増）、中学生19万3936人（前年度比3万494人増）。どちらも10年連続の増加で、不登校の小中学生数は30万人に迫っている。小学生の不登校は10年前（平成24年度）の約5倍、中学生は約2倍に増加した。

小中学校の不登校は前年度に引き続き2割以上も増えている。その理由としてコロナ禍が尾を引き、児童生徒の登校意欲が低いままであることが考えられる。

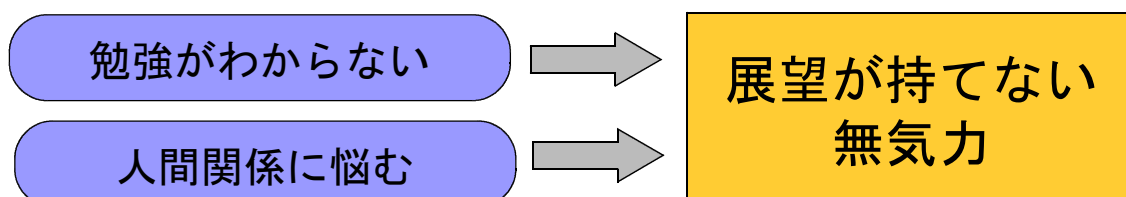
長期欠席の高校生は12万2771人を数えた。前年度にくらべて4500人以上も増加し、こちらも過去最多となった。そのうち不登校を理由とする生徒は6万575人で、前年度より9590人多くなっている。

都道府県別1000人あたりの不登校生徒数をみると、熊本県は、中学校が70.0人で全国で4番目に多く、小学校は20.0人で全国で6番目に多い。

高校中途退学率をみると、熊本県は全国で3番目に高くなっている。最も高いのが、大阪府と高知県、次いで宮城県と沖縄県、そして熊本県である。（令和5年度の県校長会研修での文科省調査官の講話では、熊本県は全国で2番目に多い県になったとのこと。）

中途退学の事由を調べると、「学校生活・学業不適応」が最も多く、約4割を占めている。（経済的理由の約3.2倍、家庭の事情の約1.2倍、問題行動の約1.2倍）

「もともと高校生活に熱意がない」が最も高く、次いで「学業不振、授業に興味がない」「人間関係がうまく保てない」と続いている。



これは、高校教育の問題ではない。当該児童・生徒の責任でもない。我々、義務教





[illegible]

**令和6年度（2024年度）  
熊本県育英英資金予約募集**

**～貸付型の奨学金のご案内～**

現在中学3年生  
対象の奨学金

※各区分の金額のうち1つを選択できます。

**育英資金の予約募集とはなんですか？**

育英資金とは、無利子の貸付型奨学金です。（将来返済が必要です。）  
予約募集とは、高校入学前に申請の手続きをし、入学後に奨学金が継続されるようにするものです。

**貸与金額（月額）**

	私立高等学校	私立高等学校 （私立高等学校 に在籍する 公立高等学校 に在籍する 生徒）	公立高等学校
普通科	18,000円 <sup>※</sup> 、13,000円 <sup>※</sup> 、8,000円 <sup>※</sup>	23,000円 <sup>※</sup> 、18,000円 <sup>※</sup> 、13,000円 <sup>※</sup>	20,000円 <sup>※</sup> 、20,000円 <sup>※</sup> 、10,000円 <sup>※</sup>
専攻科	25,000円 <sup>※</sup> 、25,000円 <sup>※</sup> 、15,000円 <sup>※</sup>		

**貸与期間：**進学先の正規の修業年限の経過年です。  
高等学校：3～5年間    高等専門学校：5年間  
専修学校：1～4年間    ※強制的に返済によって異なります。

**いつからどのくらい借りられますか？**

高校3年度（5月末末）から、毎月定額（8,000円～35,000円）を最大年間借入れられます。（金額・貸与期間は進学先により異なります。）\*お上校前

**申請方法**

に籍する中学校の奨学金担当者へ連絡してください。  
**書類の提出締切**  
9月初旬頃（学校によって異なります。）

**他の奨学金との併用はできますか？**

貸与型の奨学金との併用はできません。  
※奨学金ではありませんが、その内給付型奨学金も併用できません。

**この記事に関する問い合わせ先： 熊本県教育課（096-333-2675）**

年生  
学金

## 学びの保障

- 6 -

ここでおさらいです。

#### 経営の基調

「自分が好き」「この学校が好き」と言える学校、そして、  
展望をつかみ、しなやかに生き抜く子どもを育てる菊陽南小にする。

「しなやかに生き抜く子ども」とは

校訓「やさしく かしく たくましく」

- やさしく(徳) 自他を見つめ、想い、行動し、他者とつながることができる子ども
- かしく(知) 自ら進んで課題に取り組み、粘り強く学び続ける子ども
- たくましく(体) 自他の生命を大切に、健康や安全に気を付けて生き抜く子ども

「学び」と「つながり」の保障にこだわり、その成果が表出した子どもの姿が、今年度の学校教育目標となる。

#### 教育目標

### 学び、考え、行動する南っ子

文字としては記していないが、文頭に「主体的に」が含まれており、これは「学び」「考え」「行動する」の全てに係るものである。

#### 主体的

本校の子どもたちは一生懸命に頑張る。自主性も芽生えてきている。しかし、大人が敷いたレールの上を動いている域から抜け出せていない。だからこそ、自分で考え、工夫し、動く力まで高めていきたい。現状を見つめ、課題解決に向けて自らの思考と判断により工夫し、動き、解決する力を高めていきたい。

#### 学び

規律ある授業（学習）で、意欲的に学び、一生懸命に考え、粘り強く課題に向かい、積極的に挙手・発言・つぶやき、互いの意見を対話・交流させ、学力を高めていきたい。反復学習で、基礎基本の力を確実に定着させたい。自らの状況を認知し、目標を持ち、取り組み内容を計画的・具体的にもつことができる家庭学習の力をつけていきたい。

自分や家族、友達、地域の様々な「ひと・もの・こと」と豊かに出会い、人として大事な生き方や価値をつかんでほしい。

#### 考え

考えること、見つめること、人を想うことを大事にしたい。学習課題を一生懸命に考えること。くらしの課題を見つけること。解決の手立てを考えること。自分のくらしや思い、人の思いを

見つめること。

## 行動

授業で発言すること。人のため、誰かのために、自分の力を使うこと。自分の成長のために努力を重ねること。課題を解決するための手立てを具体的に打つこと。自分の思いを表現すること。人の笑顔を生み出すために実践すること。学校を作り上げるための小さな動きを重ねること。ありとあらゆる動きを総じて「行動する」と捉え、その力を高めていきたい。

この学校教育目標の具現化に向けて、全職員で一致団結して取り組んでいく。職員だけでなく、子どもたち、保護者、地域の方々と共に進んでいく。

### （４）実践する上で重要なこと

昨年度は、いろいろな意味で子どもの育ちがあった。学力にしても、（県学調・町学調結果ひとつをとっても）、過去に類を見ない程の非常に大きな伸びが見られた。全国平均そして県平均を大きく上回る足跡を残すことができた。やはり、研究発表会に向けて、意識をそろえ、共通実践事項の内容を理解・共有し、みんなで力を合わせて取り組んだことが大きな要因であったと考える。

だからこそ、「みんなで揃えること」「取組を徹底すること」「取組を続けること」に意味がある。

県学調結果では、他学年の伸びや同一集団の経年結果と比較すると、ある学年の伸びが今ひとつであった。そのことを受けて、元学年部の先生方が具体的に動いてくれた。いつ（いつまでに）、誰が、何を、どのように進めていくのかを具体的に練り上げ、学力保障の取組を行い続けてくれた。目の前の子どもたちに、これでもかの愛情をもって向き合い、具体的に動いていく。そのすばらしさ。

全校での集団づくりでは、集団生活上の課題はあったものの、その中で一人一人が成長し、笑顔で学年末を迎えることができた。

集団づくりは楽しい取組であるが難しい。その方法は様々である。しかし、本校の状況を考えていくと、やはり、取組内容を具体的に明らかにし、そろえていくことも重要である。

要は、「実践家の百歩より、みんなの一步」が価値あるものと考えてる。

今年度も、人権教育を基盤とする、確かな人間を育てる実践校でありたいと思う。子どもの真の笑顔を生み出し、「信頼される菊陽南小」を創造し、「誇り高い南小職員」を目指す。そして、児童、保護者、教職員にとって、「ここで学べて」「ここに通わせて」「ここに勤められて」よかったと言えるような学校にしていきたい。

そのために、教育目標や本年度の学校努力目標を踏まえた校務分掌の重点取組を共有し、同じベクトルで共通実践を積み重ねる、まとまりのある学校にする。

そこには教職員の本気と徹底、学校総体としての具体的な取組が必要である。「じゃあ、どうする」という具体的行動の中身を大切にする。また、「当たり前」の中身をそろえて、「あたりまえのことを、当たり前にする」継続した取組が必要である。与えられた校務



分掌の短期と中期の具体的な目標に向かって、凡事徹底に努めることである。「小さなことからコツコツと」が重要である。日々の目立たないが丁寧な実践の繰り返しが習慣となり、「すごい」ことが「当たり前」としてできるようになる。そして、子どもたちが意識しなくなったとき、はじめて目標は達成される。

ここで、またおさらいです。

#### ＜本年度の学校努力目標＞

一つ一つの取組に「具体性」をもたせ、「徹底と継続」を図る組織の力で、  
しなやかに生き抜く子どもを育てる学校にする

教育スローガンは  
(大切にすること)

**小さなことから具体的にコツコツと！**

**みんなで、そろえる！続ける！**

## 2 本年度の取組の土台

### (1)「学びの保障」にこだわる！～授業で育てる！～

私たちの本務は授業である。授業で子どもを育てることである。学力を身につけさせることである。学力は、強くたくましく生き抜く力のもととなるからである。

課題解決に向けた具体的な手立てを打たない授業をし続けることは、強い子どもを育てることをあきらめたことになる。子どもたちの将来の姿を、未来を育てることに背を向けた無責任なことである。

県学調結果で、県平均を下回るとはどういうことか。それは、その学年までに身につけておくべき内容を身につけていない子どもたちが目の前にいるということである。わからない悔しさ、わからない問題を目の前にして鉛筆を走らせることなく握りしめることしかできない苦しさ、意欲がないような態度で表出するしかできない姿を見せ、遠のいていく自信。「あの子(学年)は厳しい」という言葉で済ませていいのだろうか。厳しいのが現実ならば、解決への手立てを具体的に、徹底して、継続して取り組む教

職員でありたい。「目の前の子どもたちに、これでもかの愛情を」注ぎ続ける人間でありたい。私たち教師、そして授業者としての責任を全うしていきたい。  
そのために

## ★「書く」ことにこだわる！

自分の考えを、ノートやワークシート（プリント）に、鉛筆で書くことを重視する。自分の考えを、「文章で表現」することを授業で鍛えていく。「説明力」を高める授業づくりに努めていく。とことん「書く」ことにこだわる。

本校の子どもたちは「なんとなくわかった」という状況にありがちな面がある。だからこそ、思考を整理し、まとめ、文章で表現することに力を入れる。さらに、文章（書き言葉）により考えを表出させる力から、言葉（話し言葉）・発言により表出・表現していく力を高めていく。

## ○学力向上プランの見直しと徹底！

### ○全学調・県学調・町学調の問題分析、結果分析、そして、課題解決のための具体的取組！

「求められているもの」を知らずして、真の授業づくりはできない。目指す姿と子どもの実態を踏まえて、必要な具体的な手立てが見えてくる。

## ○「わかるように わかるまで」を合い言葉に！

## ○学習規律の徹底！

## ○校内研における共通実践事項の徹底！

## ○ICTの積極的・効果的な活用！

子どもたちが気軽に「わからない」が言える学級風土作りに努め、教師も子どもも「わかるように わかるまで」を合い言葉に向き合い、「わかった」「できた」「楽しい」という実感を持つことができるようにする。

そのためにも、学習規律の徹底を図り、「授業は真剣勝負」という空気を根付かせることが重要である。

また、各種の共通実践事項は全学級で徹底していく。全職員で同じ方向を向いて取り組んでいく。担任が替わっても取組内容は変わらない学校であるべき。担任が替わり取組も変わってしまうような学校では、子どもの育ちもバラバラになり、育ち度も期待できなくなってしまう。「担任の教育」ではなく、「南小の教育」であるべき。

ICTの積極的・効果的な活用に力を注ぐ。学習内容の「理解」「思考」「探求」「反復学習による定着」での活用の充実を図っていく。

## ○体力向上のための具体的手立てと徹底！

コロナの影響以降、子どもたちの体力の低下が著しい。体力向上は、まさに生きる力の土台づくりである。

だからこそ、「キャロッピー体操」に加え、体力向上のための具体的手立てを打ち、全校をあげて徹底して取り組んでいく。

## (2)「つながりの保障」にこだわる！～日常で育てる！～

菊陽南小は人権教育を土台に据えている。一人一人の人間が、人間の尊厳を守られ、幸せに生きていく社会を構築するため。そのための力を教育の力によって、子どもたちが身につけていくため。

しかしながら、子どもを取り巻く社会や世界の情勢はどうだろう。いじめや差別は未だに現存する。同じ屋根の下で暮らす大切な友に、心ない言葉や態度を浴びせかけていく子どもの姿がある。日本の学校の現実である。

また、自分の利益や安心のために、自分の考えのみを押し通したり、他者の責任を過剰に追及したり、無責任に攻撃したりする日本の社会に変わってきている面がある。

世界では、ウクライナやパレスチナへの軍事侵攻、自国の利益ファーストによる理不尽な政策、ミャンマーでの大地震等、尊い命が失われ、人々が手を携えて幸せに生きる社会を築いていくことを阻まれている現実がある。

そのような中、現在（いま）を生きる子どもたちに必要な力を培うことに力を注いでいきたい。人を想う温もり、多様な他者と繋がる力、世の中の出来事を見つめ考える力、ふるさとを愛する心とグローバルな視野などである。

混沌とした世界情勢の中だからこそ、目の前の子どもたちには、将来、みんなが幸せに生きる社会をつくる担い手となってほしい。自分自身と自分の側にいる人を大切にできる、立派で強い（たくましく、しなやかに生き抜く）人間になってほしい。

だからこそ、「人を大切にする」ということを毎日の生活、授業の中で、途切れることなく育てていく。

そのために

## ★「見つめること」と「書く」ことにこだわる！

自分のこと（心の中、くらしの事実）を見つめること。学級の様子を見つめること。友だちの気持ち等を知り、思い馳せること。くらしの事実から家族の思いや生き方を手にすること。そしてそれらを書き続けることにこだわり、確実に取り組んでいく。そうして、一つ一つのことに足を止めて考えきれる子を育てていく。大事なこと

を簡単に流してしまわず、「問題を問題にできる」力をつけていく。その中で、科学的なものの見方を手につけさせていく。

班ノート、日記等の取組を学校全体で進めていく。できれば方法を統一したい。少なくとも、低・中・高の発達段階毎には、そろえて取り組んでいく最初の年にしたい。

まず、人を想う心を養うこと。そして、自分の思いを表出させ、側にいる人と繋がり、課題を協働して解決していく力を身に付けること。綴っていく中で、新たな価値を見だし、それが生き抜く力の礎となつてほしいと願う。

自分の思いを胸の底に沈め、表出させることができない面があるのではないかと、心の中に「？」マークを持って取り組んで欲しい。本校でも、「もしかしたら」という危機感を持つ必要があるし、「だからこそ」力をつけていきたいところがある。

もしかしたら、自分一人でものごとを背負っている子どもがいるのではないか。もしかしたら、あきらめや無関心を感じている子どもたちさえいるのではないか。そのような心構えで、子どもと向き合い、だからこそ、「書く」ことにこだわりたい。

また、今年度はN I E（新聞）を活用して、社会の出来事に関心を持たせる。社会や世界の出来事に目を向ける力を育てていく。子どもたちの人権感覚を日常的に磨いていく。→令和7年度（2025年度）人権教育取組の方向等に関する説明動画参照

## ○規範意識と支持的風土の醸成

◆一生懸命に人の話を聞く。相手を見て（うなずきながら）聞く。

→人を大切にする第一歩は、人の話を一生懸命に聞くことである。机に伏して聞くとか、手遊びしながら聞くとか、もつてのほか。姿勢を正して聞く。心ない言葉、表情、目配せ等も絶対許さない。安心して思いや意見を出すことができるようにする。

→自分の思いを発言しようとしている友の、胸のドキドキや唇の震えがわかる子を育てる。そのためにも、懸命に聞く子を育てる。

◆時間（とき）を守る。場を守る。授業は自分を高める真剣勝負の場。

→授業終始の時間を守る。黙想で心を落ち着かせて、真剣勝負に臨ませる。

→大事な授業の時間や場において、動き回る、大声を出す、勝手な行動などは許されない。そのときに授業を止めてでも注意する。そのおかしさを説く。

「水は低きに流れる」ことを忘れない。一度のおかしさを許したり放っておいたら、どんどん崩れていく。崩れた集団の中には、涙を流す子がいることを忘れないように。

## ○学習規律の徹底

◆授業で、一つ一つのことを一生懸命にやれる子を育てる。その一生懸命さは、必ず人を想う心につながっていく。

◆大切なのは「徹底」と「継続」である。「(子どもには) 言っているんですけどね」



は言い訳。「自分は徹底させる力はありません」と言っているのと同じ。

◆ 99回できなくても、100回やらせてほしい。

→最終的に子どもの力をつける。できないことを、できるようにすることが「先生」

## ○「心のアンケート」を定期的に実施

◆子どもの声にならない声をつかみにいく。その一つが「心のアンケート」。

頻繁に実施していく中で、たった1回、一人の子が、自分の声にならない声やつらい思い、救いを求める声を書いてくれたら、それでいい。

◆アンケートに頼らない。自分の目で子どもたちの様子を見つめること。話すこと。一緒に遊ぶこと。家庭訪問をして、暮らしを知ること。保護者と話すこと。

## ○特別活動の活性化

◆大切にしたいのは、主体性。自主性を越えた主体性を持てるように、長期的見通しを持って育てていきたい。言い換えると、「考えて、行動する」子どもの姿を生み出していきたい。「問題を問題にする」ことと「問題は子どもに返す」ことが重要。

◆規範意識と支持的風土について子どもたち自身がこだわり、解決に向けて動く力をつけること。

◆「縦割り班」の繋がりの中で育てることを、継続して大事にする。学年を越えて、学校全体が一つの学級のようにしていく。その中で、人と人との結び目がいかに重要で心地よいものなのかを実感としてつかませていく。思い合い、労り合い、ただ側にいることの心地よさをつかませていく。

## ○保護者との繋がりを重視～1day1call運動の推進～

我々は「教育者」であり、「共育者」でもありたいと思う。保護者の宝物である子どもを共に育てていく存在でありたいものである。

そのために、保護者との繋がりを重視する。教室（学校）だけで子育てをしていると錯覚しないこと。常に、コミュニケーションを取って、話をして、「共育のパートナー」として仲良くなろう。そのことが円滑な学級経営にもつながっていく。

だからこそ、「1 day 1 call 運動」を推進する。1日に1軒、家庭に連絡を入れる。家庭訪問でもよいが、保護者や我々の生活時間もある。放課後にちょっと電話を入れて、子どもの様子・頑張り・育ちを伝えていこう。ほんの5分程度でもいいので、学校から発信していこう。電話が無理でも連絡帳等でもいい。どんな方法でもよい。単純計算で、児童数が多い1年生でも、1日に1軒の保護者と電話線等で繋がっていけば、約1ヶ月で、全ての保護者と繋がることができる。そのちょっとした積み重ねが大切である。

## ○ふるさと教育の一層の充実

本校は、地域に愛され、支えられている学校である。菊陽町のすさまじい発展により人口の流入・増加は若干見られるものの、全体的には過疎化の真っ只中にある小規模校である。

そこで育つ子どもたちには、将来的にグローバルな人材として活躍してほしい。そのためにも、「ふるさと教育」を一層充実させていく。生まれ育ったこの地のすばらしさ、菊陽そして日本のすばらしさを知り、感じ、誇りに思ってもらいたい。その誇りこそが、10年後20年後に、たくましく、しなやかに生き抜く力となっていくと信じて、取り組んでいきたい。

だからこそ、地域の「ひと・もの・こと」を学び体験することを充実させていく。